

林崎居合大明神参拝と

佐渡真野神宮奉納雑感記

教士八段 石垣 豊太郎

日本一社の山形県村山市が終へ、引続き奉納居合に林崎居合大明神奉納納演還り、河野名人十段位(大武は、隔年に無双直伝英信(飯)川久保流次教士八段(流居合第二十代宗家河野名仙台)安斉吉郎教士七段(人を主体とする祭り)で本年福島)谷島一雄教士七段(も八月二十日午前十時に各地より集まった剣士地元の大阪)吉田宏六段(東京)奥山会長、宮司有志等にて惣沢正勝七段(仙台)鎌田式典が行われた、村山市議、清蔵錬士、服部昭太郎錬士、会長田中吉二氏の親連の辞六段、大場博夫、吉田芳美に初まり総代有志、飯田宮稲村輝武氏等(山形)井上可等の挨拶あり、日本一社兵一六段(福島)小沢輝雄林崎神社としての最高功勞五段(会津)石垣八段等の奉者として、河野名人に感謝納居合が行われた、最後に状と記念品が贈呈され式典奉納された、宗家名人の演



林崎神社での河野名人の奉納演武



奥宮参拝の一行

技は誠に神わざを思わしむる静寂の中に豪快なる極め技であり身の引締る思いでした、引続き直会に移り又夕刻、潮風先生や有志の方々の心を込めた酒宴に招かれ多大なる御馳走に預り盛況裡に引揚げ東根温泉さわや旅館に泊り、翌二十一日朝七時出発し北東三十キロの奥地靈験あらたかなる、奥の院、石城通奥の宮、釜ヶ沢大明神の祀られた、山頂の岩穴迄は一二〇〇米あり道無き岩石、小川を便りに躡る者と繁った、切り立った坂道を登りつめ漸やく岩神窟につく、そこは断崖絶壁の山上にて躡者と繁った木立林の中である、登山者は十九名でした、内婦人二名、鈴木正久山武士のホラ

貝の吹下す音を便りに登りつめ神窟前の十疊敷程の平地大前に額づき武道興隆を祈願させて戴き、宗家外十名の居合奉武を行ひ、右に五十米程雑木林を行くと源重信公の休まれた岩窟あり数百年の昔時を思ひ浮べて下山した所は細野村、地元別当田中咲次郎氏宅に着き有志多勢に囲まれ山菜珍味の料理にて銘酒し楽しく御馳走に成り又愛車の人となり東根温泉さわやにて疲を療した私は林崎神社より六キロ南方の東根市に生れ育った古郷なので、昭和三十九年より今年で五回目の奉武をした、此の居合神社は最上義光公につかへた浅野数馬の子で幼時は民治丸と呼ばれていた、居合道の元

祖と両われている、源重信公の父浅野数馬が何物かに殺された父の仇討をしようとして、同神社に立籠り武道を磨き、夢に現われた神の御告で悟を開き道を知り剣案されたもの、後で京都にて仇討をしたと両う伝説がある、居合術は四百年前元龜天皇の頃戦国時代、実戦の必要に応じて研究されたものである、その林崎甚助源重信公の伝へられし業を七代、九代と順次に伝わり現在二十代宗家と継承したのである、居合の今日は無形文化財である、昔時はもっぱら実戦に用いられた時代の技を深く究明し自身のものとして身に付け門外不出の業としてあったが、現代ではその必要なくなり、一般に公開し居合術の防禦攻撃の術を得る事から始したが、其の目的とする所は身心の鍛錬を第一とし身体の錬磨、技術については剣道の根本となるものであり始祖創剣の妙刀を錬磨して形より心に入り業により心を養うとの教の如くに、心剣一如の妙を悟り、品格の陶冶錬成に務め処世の大道を正しく歩む事によって、真の居合道の意義があり、心身統一の為め身心の健康保持し八十才なほ健康、婦女子と言へども現在教士八段位二人も出て居る、誠に体育としても宜しい。